

2021 年度(令和3年度)学校評価自己評価表

精華中学校区	校番 34	福山市立金江小学校
最終更新日		2021年(令和3年)4月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状
<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒はコロナ禍にあっても、人のため・地域のためにできることはないかと考え活動を工夫している。 一堂に会することは難しいが、学校・保護者・地域が互いに連携協力できるように、各学校の情報を細やかに知らせる。 小規模校の良さを活かしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識は高く、言われたことに対して守ろうとする。 自己表現力が弱く、自分の考えを分かりやすく話したり書いたりすることに課題がある。 地域とのかかわりが強く、中学校区に対する愛着は強い。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	創造性	批判的思考・問題解決・意思決定	耐える力
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	生活や社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を表現している。	生活や社会をよりよくするため、様々な情報を多面的・多角的な見方で分析し、課題を適切な方法で解決している。	よりよい生活や社会の実現に向けた目標を定め、その達成のために、粘り強く工夫し、他者に配慮しながら、多様性を尊重し協働して学び続けている。
中学校区として統一した取組等	自分の考えを、話す・書く等で表現させる。	根拠を持って考えを表現させる。	相手の立場を思いやりながら、目標を決めて、最後までやり遂げようとさせる。

III 自校

ミッション
地域に貢献する 自立した子どもの育成 ～主体的に学ぶ授業の実現～

学校教育目標
共に高まる たくましい子の育成

現状
<p><児童生徒>スキル倫理観の観点</p> <p>「どうすればできるか」「～したらどうなるか」という見通しをもって、自分で考え、筋道立てて説明したり、理由をつけて意見を交流したりすることが少しずつできるようになっている。向上・改善に向けて、最後まで粘り強くやりぬく意識や態度をさらに育てる必要がある。</p> <p><授業>子ども主体の学びの観点</p> <p>児童が学習内容のつながりに気づいたり、学び方を自分で決めたりして、自ら学習を深めることができるようになる必要がある。</p> <p>子どもの認知がどのようであるかという視点を取り入れ、授業を計画したり、実践を振り返ったりして、児童と共に学びを創るという教師の姿勢が必要である。</p>

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	創造性	批判的思考・問題解決・意思決定	耐える力	
めざす子ども像	1～4年	日常生活をよりよくするために、自分の考えを持ち、話したり書いたりして表現している。	日常生活をよくするために、生活体験などの情報を生かし、自分なりの理由を付けて課題を解決している。	思いやりの心を持ち、目標を達成するために、協力し合い、粘り強く努力している。
	5・6年	日常生活や地域社会をよりよくするために、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書くなどで表現している。	日常生活や地域社会をよりよくするために、様々な情報の中から課題に応じた情報を選択し、根拠をもって解決している。	誰に対しても思いやりの心を持ち、より高い目標を達成するために、相手の立場や考えを尊重しながら、粘り強く取り組み、やりぬいている。

研究	テーマ	主体的に課題を追究し、共に高まる子どもをめざして
	内容等	～ICTの活用と子どもが主体的に活動する場の工夫～ 生活科・社会科・総合的な学習の時間を中心として
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 児童がICT機器を活用し、自ら学びを進める授業 児童と共に単元計画を立て、学びの姿と学習の振り返りの分析を通して、教師が児童の学びを見取り、支援できる授業 	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立金江小学校

年 目	中期経営 目標	重 点 分類	短期経営 目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
						□指標に係る 取組状況	加え 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況	◎短期(中期)経営 目標の達成状 況	加え 評価	達成 評価
2	主体的で深い学び	★ 継続	自分の考えを持ち、かかわりの中で考えを深める児童の育成	・児童が自分の学び方について考えを持ち、実行しているか1週間ごとに振り返る場を設定する。	・振り返り用のハーフノートに、児童が振り返りを書いている。(100%) ・1学期に最低1単元のポートフォリオを作成し、児童が自分で自分の学習のあしあとを残し、自己評価しながら、学びを進めることができるようにする。								
			読書活動を楽しむ児童の育成	・本に親しませ、お気に入りの本を紹介する場をつくる。(読書郵便の活用)	・読書郵便…校区の学校へおススメの本を1冊紹介する。 ・学校内で、おススメの本を紹介する。(学期に一回) ・紹介された本を3冊以上読む児童を80%以上にする。								
1	ICTを活用した授業の工夫	新規	1人1台の端末整備を受けてICTの活用を推進	・どういう場面でICTを用いたか交流し、運用例を共有する。 ①児童の反応がよい。 ②子どもが主体的に学ぶことができた。	・①②のような授業を学期に1度は実践する。								
3	自ら考え判断し行動する	継続	人を思いやり、粘り強く努力する児童の育成	・毎週の振り返りを大切に ①思いやりのある行動 ②粘り強く最後までやりぬく	・毎週の振り返りで「思いやりのある行動か」とれた児童を90%以上にする。 ・各学期ごとに、自分がかんばるめあてを設定し、週ごとに振り返り、「達成できたか」「達成のためどうするか」を記録して、自己評価していく。								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。